

建仁寺周辺エリア

～六道珍皇寺・六波羅密寺・法観寺(八坂ノ塔)

大和大路通り・八坂神社・宮川町・祇園町南～

エリア概要

- 建仁寺は、1200年代に開かれた最古の禅宗寺院である。
- 建仁寺周辺では、建仁寺の土塀の中のゆったりした境内空間と六波羅から祇園につながる高密度な市街地とが巧みな均衡を作り出している。

- 建仁寺周辺には、その境内地取り巻くように祇園町南地区の市街地が形成されている。16世紀後半、豊臣秀吉が方広寺、伏見城を築いたことにより、大和大路は、にわかには人の往来が増え、通り沿いに町並みが形成された。

建仁寺

建仁寺は、1200年代に開かれた最古の禅宗寺院である。建仁寺は、建物が密度高く建ち並ぶ市街地の中にあり、緑豊かな広大な境内地に大規模な伽藍が配置され、ゆったりとしたオープンスペースとなっている。明治4年以前は、建仁寺の境内は現在より北に広く、現在もその名残として、北側に塔頭が建ち並ぶ。



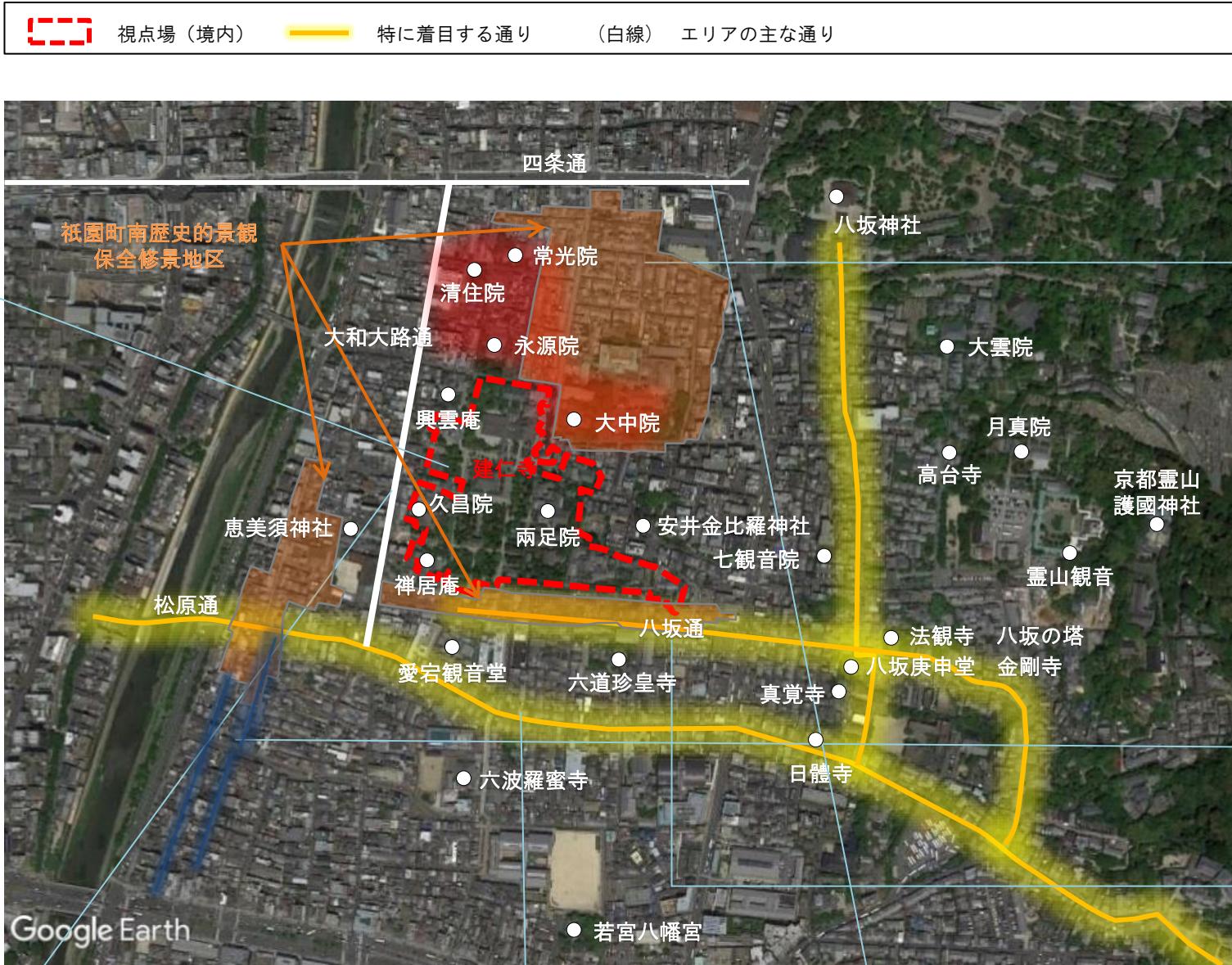
建仁寺山門



建仁寺法堂



建仁寺塔頭



大和大路通

建仁寺門前としての市街地化が顕著であり、寛永5年(1665)刊「京雀」によると、四条以北に比し建仁寺周辺に町家が多く見られたことをうかがわせる。⁸⁾

現在も、所々に古い町家が並ぶ。



松原通 (六波羅密寺・六道珍皇寺)

沿道には六道珍皇寺、少しそれたところに六波羅密寺がある。1674年段階ですでに六波羅密寺を中心として市街地化していた。⁶⁾ 珍皇寺の鐘は冥途にまで響き亡霊をよび寄せるといわれ、7月10日には「六道の迎鐘」と称して、参詣客がこれについて精霊を迎える風習があり、その参詣を六道詣とよびならわしてきた。⁷⁾



六波羅密寺



六道鎮珍皇寺

八坂神社と八坂神社門前

祇園社は、古代から八坂郷の鎮守である。祇園社西門前の門前町として、中世以前より市街化の進行がうかがえた。四条通の両側に「在家」が見られ、四条通の南にも人家が密集していた。⁵⁾ 現在も、四条通沿いに門前町らしいにぎやかな町並みが見られる。



祇園町南歴史的景観保全修景地区

建仁寺の境内地を取り巻くように祇園町南地区の市街地が形成されている。現在は、鴨東の山紫水明の地に、木造建築の宝庫として繊細で雅やかな町並み景観を生み出し、京都を代表する歴史的景観地区となっている。

祇園町南

明治に入り、維新前夜の祇園の火災や洛中の戦火などにより衰退する京都の救済策として、建仁寺の塔頭を整理して町地とし、祇園町南側の町並みが形成された。明治7年に、この七万坪余りの土地を祇園甲部お茶屋組合が譲り受けて作られた町が、現在の祇園町南側であり、祇園甲部歌舞練場がある。¹⁾



花見小路通

宮川町

茶屋町として開発され、遊興地としての雰囲気濃い。²⁾ 建仁寺新門前として、宮川町通の裏、松原通以南の耕地に計画的に造成された町々である。³⁾



宮川町通

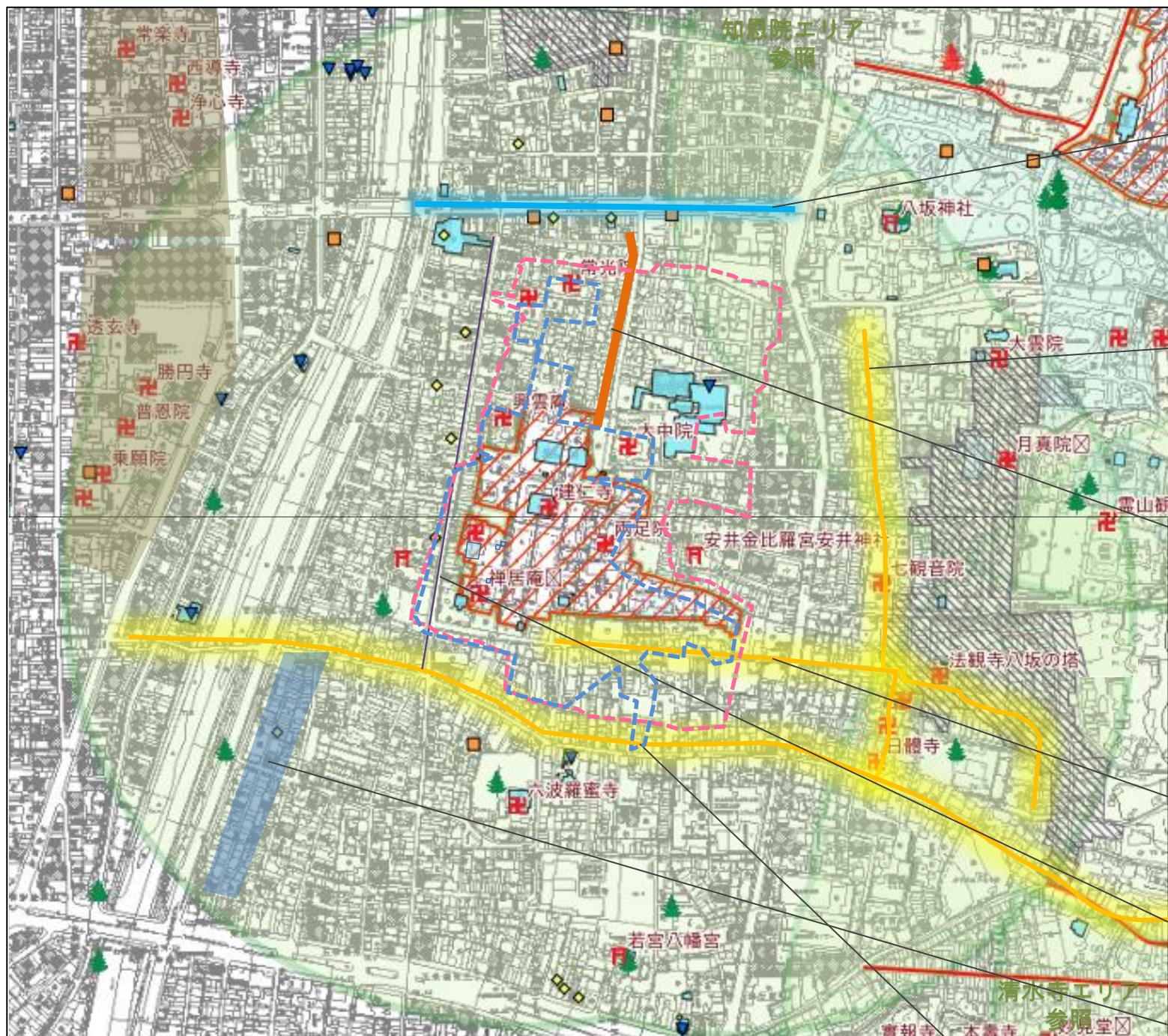
八坂通・法観寺

法観寺は、明治末期までは、建仁寺塔頭大中院の管理下にあったが、現在は独立している。⁴⁾ 八坂通からは八坂ノ塔が望見できる。



八坂通

エリアの概要



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】			
	視点場（境内）		天然記念物
	視点場（参道等）		保存樹・ 区民の誇りの木
	近景デザイン保全区域		明治16-18年時点の境外
	特に着目する通り		明治16-18年時点の境内
	明治25年以前から存在する市街地		国土地理院社寺データ等 ※
	界わい景観整備地区		文化財（建築物）
	歴史的景観保全修景地区		文化財（史跡・名称）
	国土地理院社寺データ等 ※		

※ 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m²以上の社寺データ

松原通

松原通は、清水坂の延長に該当し、沿道には六道珍皇寺、少しそれたところに六波羅密寺がある。1674年段階ですでに六波羅密寺を中心として市街地化していた。¹⁶⁾



六波羅密寺



六道珍皇寺

八坂神社門前

祇園社は、古代から八坂郷の鎮守である。祇園社西門前の門前町として、中世以前より市街化の進行がうかがえた。四条通の両側に「在家」が見られ、四条通の南にも人家の密集していた。¹⁰⁾ 現在も、四条通沿いに門前町らしいにぎやかな町並みが見られる。



下河原町通

祇園社（現八坂神社）南門前、鳥居前より南へ八坂道までの間の街路。古くは祇園社の表参道であったので、祇園大路の名称があり、また中世には百度大（小）路の名称があった。⁹⁾ 東景寺



花見小路通・祇園町南

明治初期に四条通以南、建仁寺までの区間が開かれた。¹¹⁾

明治（1868年～）に入り、維新前夜の祇園の火災や洛中の戦火などにより衰退する京都の救済策として、建仁寺の塔頭を整理して町地とし、祇園町南側の町並みが形成された。

明治7年に、この七万坪余りの土地を祇園甲部お茶屋組合が譲り受けて作られた町が、現在の祇園町南側である。¹²⁾



八坂通

大正初期、東大路通の開通を機に八坂通が築造され、沿道の町並みが形成され、現在の八坂通が形作られた。



大和大路通

かつて、四条・五条間を建仁寺（町）通と称した。建仁寺門前としての市街地化が顕著であり、寛永5年（1665）刊「京雀」はこの通りのことを、四条以北に比し建仁寺周辺に町家が多く見られたことをうかがわせる。¹⁵⁾ 現在も、所々に門前らしい古い町家が並ぶ。



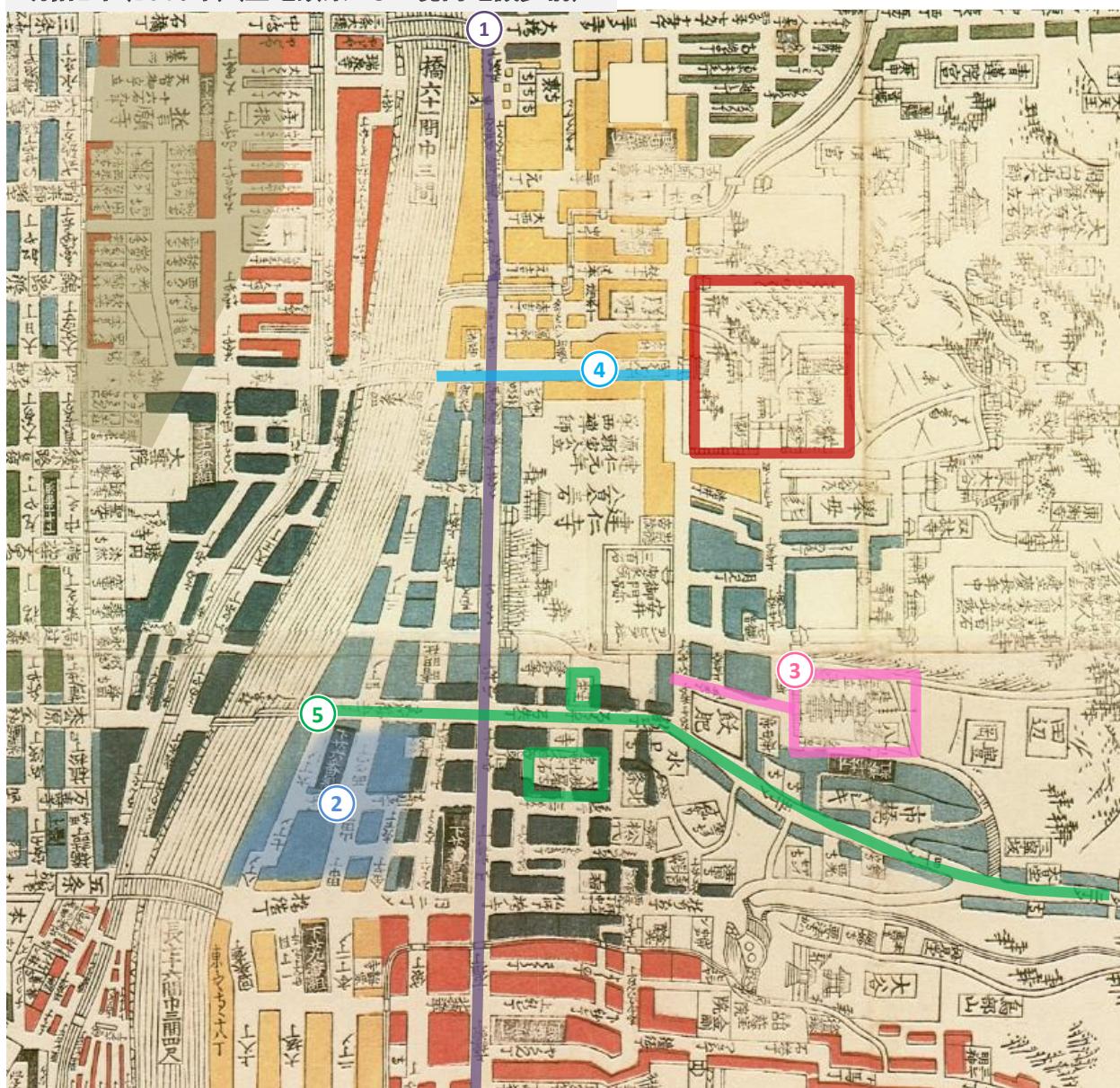
宮川町

宝永6年（1709）京大絵図に初めて記される。当初より茶屋町として開発され、遊興地としての雰囲気が高く、宝暦元年（1751）より全域が宮川町遊里となる。¹³⁾ 建仁寺新門前として、宮川町通の裏、松原通以南の耕地に計画的に造成された町々である。¹⁴⁾

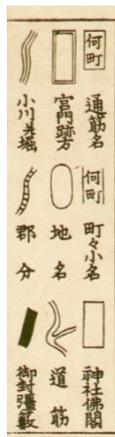


エリアの土地利用の変遷 (1)

明治2年(1869年)(上地政策による境内地減少前)



京町御絵図(明治2年)



当エリアの南部が鳥辺野の北西麓に位置するところから、平安時代よりこの地は、いわゆる無常地の一部を形成し、9世紀中ごろには珍皇寺も建立された。この珍皇寺には「今昔物語集」をはじめ古くから数々の伝承が付随している。

次に、建仁2年(1202)、栄西によって建仁寺が開創され、中世には無常地に隣接する寺院地としての性格を強くしていった。建仁寺が禅宗寺院として盛んとなっていったのは、1265年からのことである。¹⁷⁾

① 大和大路通

広義の大和大路は、3つの部分よりなり、四条・五条間を建仁寺(町)通と称した。街路は、既に寛永年間(1624~44)の絵図にみえるという。¹⁸⁾

建仁寺門前としての市街地化が顕著であり、寛永5年(1665)刊「京雀」はこの通りのことを、四条以北に比し建仁寺周辺に町家が多く見られたことをうかがわせる。また、寛文・延宝期の景観を描くとされる史料には、この個所のみ町並みの素描を加えている。¹⁹⁾

② 宮川町

江戸時代、一部は建仁寺領に属した。宝永6年(1709)京大絵図に初めて記される。当初より茶屋町として開発され、遊興地としての雰囲気が高く、宝暦元年(1751)より全域が宮川町遊里となる。²⁰⁾

建仁寺新門前として、宮川町通の裏、松原通以南の耕地に計画的に造成された町々である。²¹⁾

③ 法観寺

明治末期までは、建仁寺塔頭大中院の管理下にあった。²²⁾

法観寺五重ノ塔の西の八坂通は、この時期はまだ建仁寺の南に沿っていなかったことがわかる。

④ 八坂神社門前

祇園社は、古代から八坂郷の鎮守である。

祇園社西門前の門前町として、中世以前より市街化の進行がうかがえた。四条通の両側に「在家」が見られ、四条通の南にも人家の密集していた様子がうかがわれる。近世の祇園村の区域形成は、洛中よりの参詣道として、四条大路が鴨川を渡って東に延び、「西門前大路」ができたことによるが、その時期は明確でない。また、祇園村に茶屋の設置が公認され、新たに門前遊楽街としての機能を発揮するに至る。

祇園村の市街化はこの一帯に広大な遊興地を現出させた。18世紀以降は島原を圧倒する勢いさえ示したという。²³⁾

⑤ 松原通

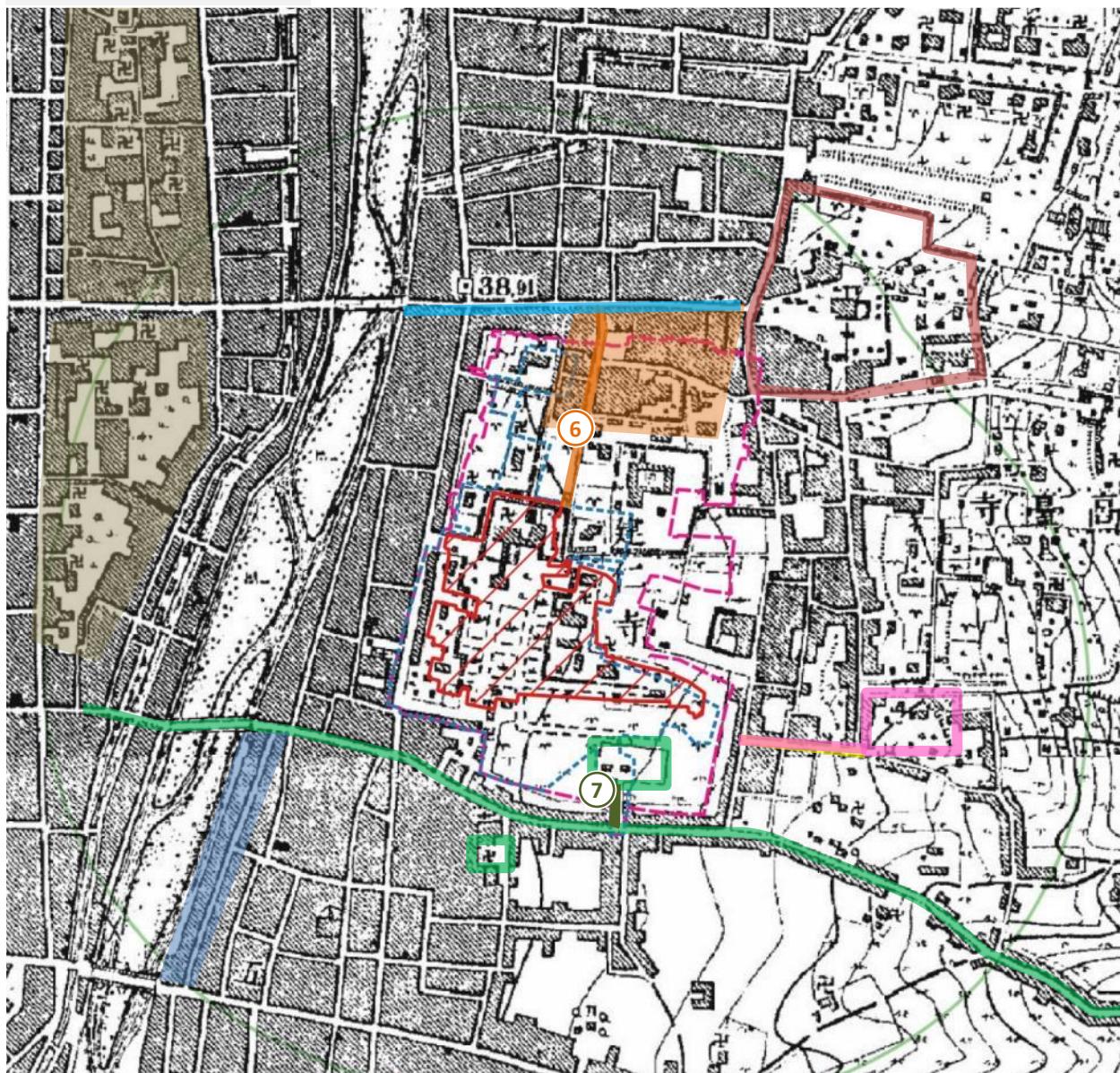
松原通は、清水坂の延長に該当し、沿道には六道珍皇寺、少しそれたところに六波羅密寺がある。1674年段階ですでに六波羅密寺を中心として市街地化しており、さらにその後、六波羅密寺南が市街地化した。²⁴⁾

○ 寺町通

豊臣秀吉の都市改造政策によって洛中に散在する寺社をこの通りに集中させたのでこの名がある。かつては本通りの東側に大小の寺院が軒を並べ、寛永期(1624~44)には洛中寺院の約三分の一を数えた。²⁵⁾

エリアの土地利用の変遷 (2)

明治25年(1892年)



- 明治16-18年時点の境外地
- 近景デザイン保全区域
- 明治16-18年時点の境内地
- 視点場(境内)
- 特に着目する通り

資料: 仮製地形図(明治中期)(国土地理院所蔵)
 画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

⑥ 花見小路通・祇園町南

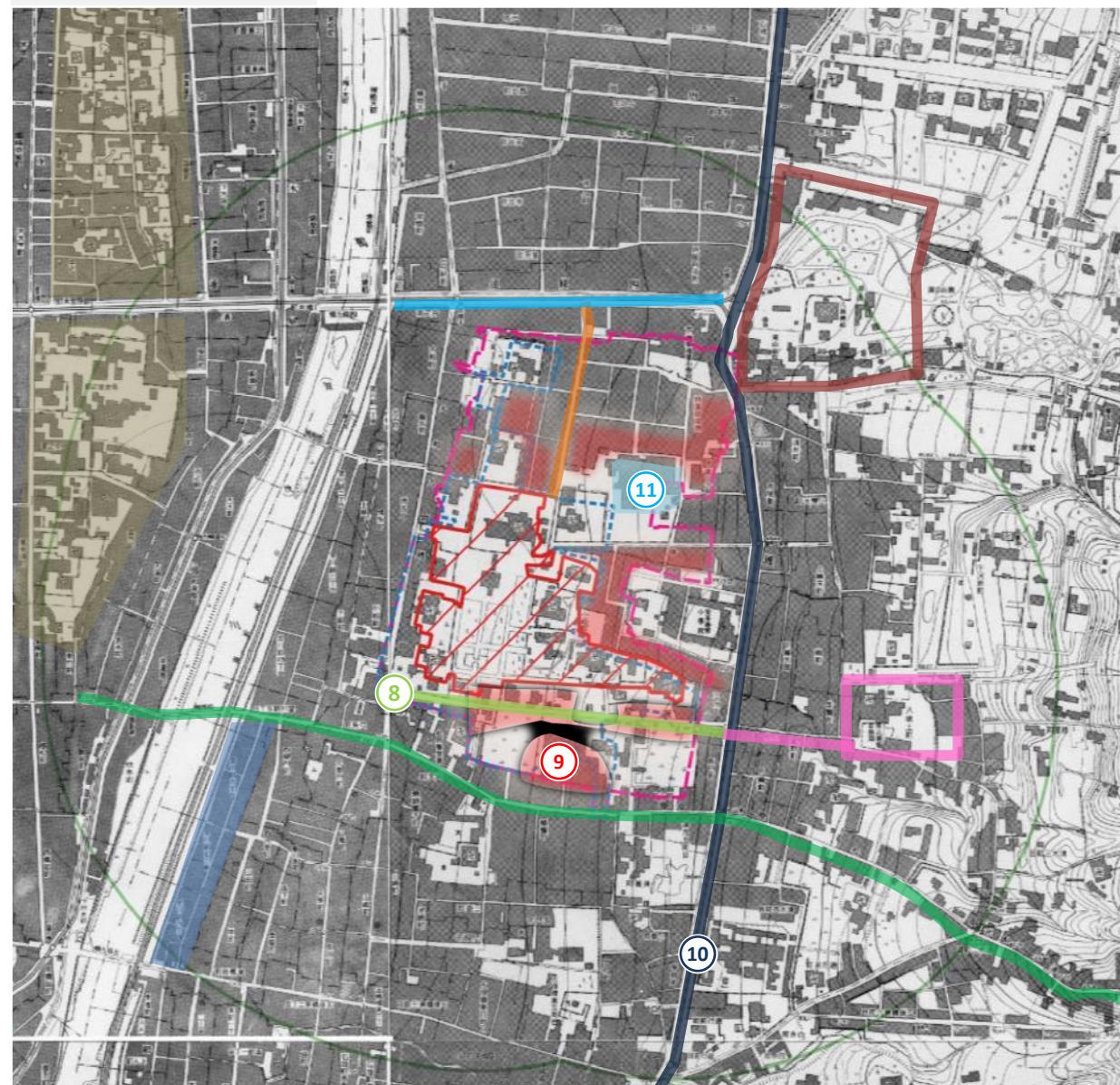
明治初期に四条通以南、建仁寺までの区間が開かれた。²⁶⁾ 明治(1868年~)に入り、維新前夜の祇園の火災や洛中の戦火などにより衰退する京都の救済策として、建仁寺の塔頭を整理して町地とし、祇園町南側の町並みが形成された。

明治7年に、この七万坪余りの土地を祇園甲部お茶屋組合が譲り受けて作られた町が、現在の祇園町南側である。²⁷⁾

⑦ 六道の辻

六道は珍皇寺の通称。六道の辻は珍皇寺の門前のことをいう。この称は中世以来のものある。²⁸⁾

大正11年(1922年)



資料: 京都市都市計画基本図(大正11年)(京都大学文学研究科所蔵)
 画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

⑧ 八坂通

大正初期、東大路通の開通を機に八坂通が築造され、沿道の町並みが形成され、現在の八坂通が形作られた。

⑨ 建仁寺境内

かつての境内地の市街地化が進んでいる。

⑩ 東大路通

松原通以南が延長されたことが分かる。

⑪ 祇園町甲部歌舞練場

大正2年に現在地に新築され、芸舞妓の殿堂となった。²⁹⁾

建仁寺境内の歴史的資産と守っていききたい眺め

建仁寺

建仁2年（1202）栄西の創建で一般に「けんねんじ」とよばれ、八坂通に面する正面の勅使門から三門・仏殿・方丈が南北に一直線上に並び、その左右に子院・塔頭が並ぶ。山号は東山。臨済宗建仁寺派大本山。本尊は釈迦如来。³⁰⁾

文化財

国指定重要文化財	方丈	256	勅使門 (矢の根門)	257		
府指定文化財	禅居庵 摩利支天堂	522	法堂	1029	浴室	1030
	大鐘楼	1031	小鐘楼	1032	楽神廟	1033
	西門	1034	北門	1035	向唐門	1036
	庫裏	1037	久昌院本堂	1038	久昌院表門	1039
	久昌院鐘楼	1040	久昌院霊屋	1041		
国指定名勝	霊洞院庭園	302				
府指定名勝	両足院庭園	218				

[国指定重要文化財]



方丈※1



勅使門（矢の根門）※1

[国指定名勝]



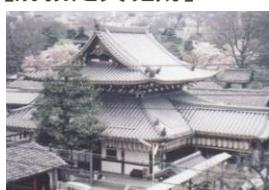
霊洞院庭園※1

[府指定名勝]



両足院庭園※1

[府指定文化財]



禅居庵 摩利支天堂
※1



法堂



浴室※1



大鐘楼※1



小鐘楼※1



楽神廟※1



西門※1



北門



向唐門※1



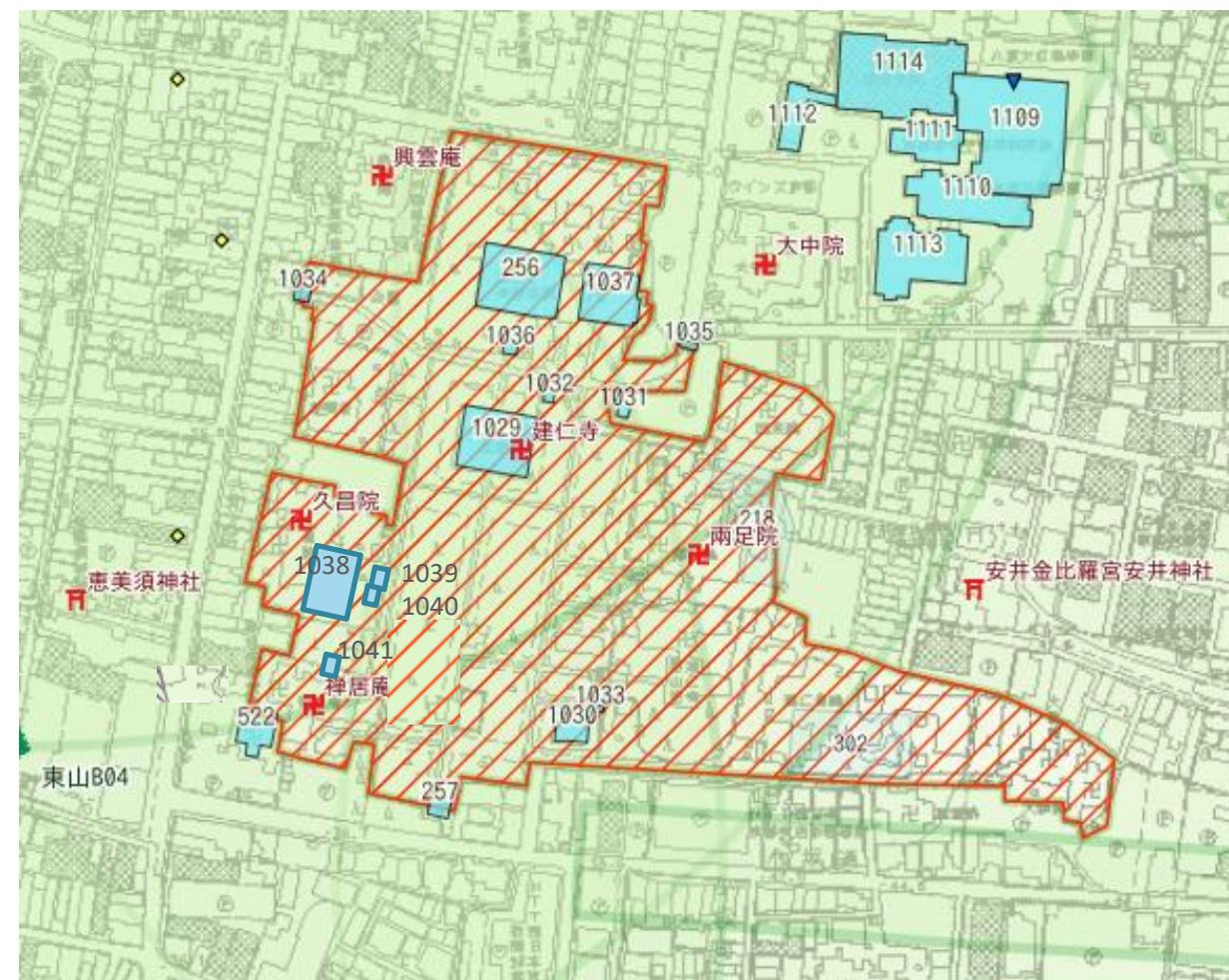
庫裏※1



久昌院本堂※2



久昌院表門※2



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

建造物・庭園

- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）

樹木

- 天然記念物
- 保存樹・区民の誇りの木

国土地理院社寺データ等 ※

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ



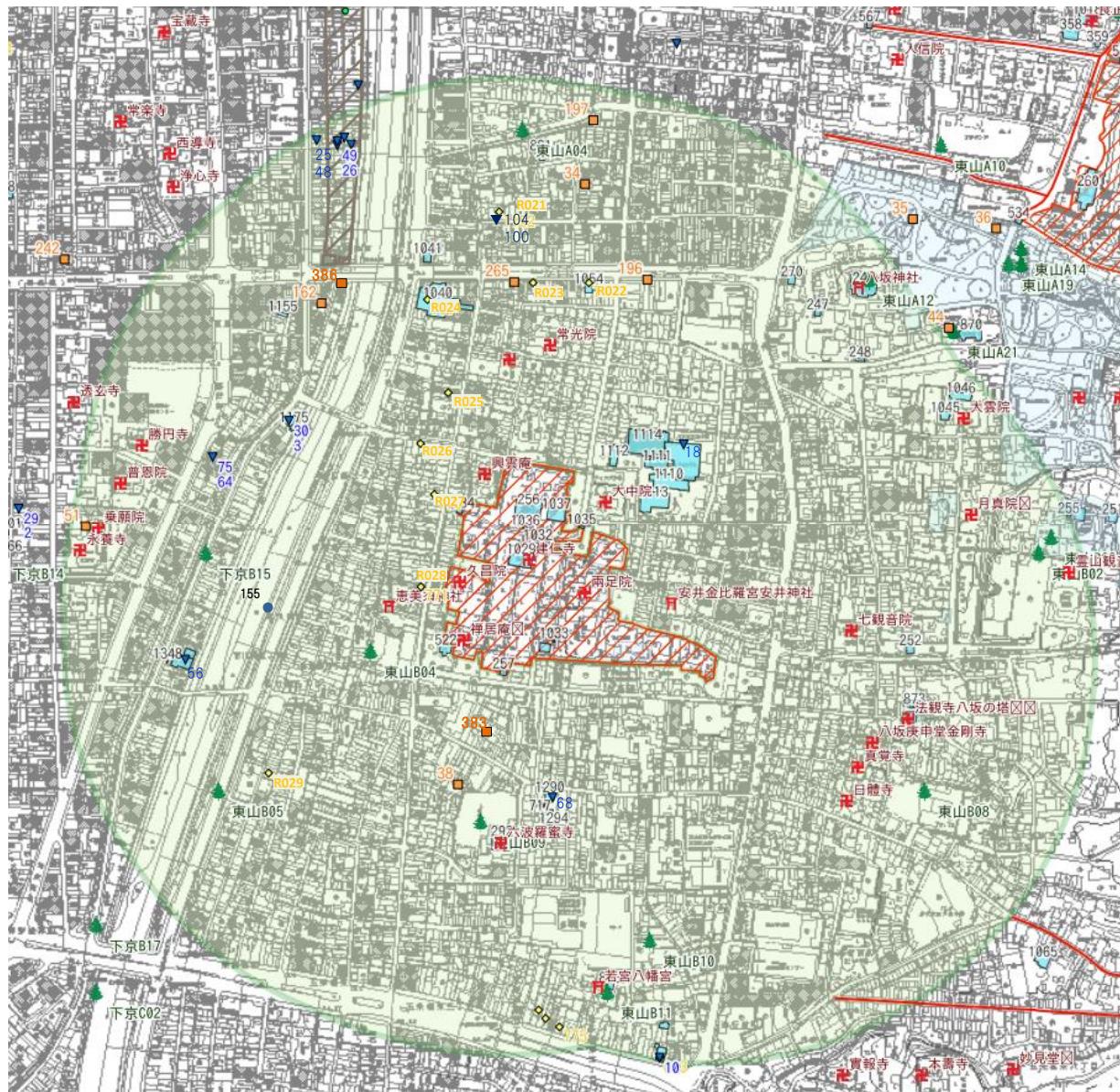
久昌院鐘楼※2



久昌院霊屋※2

※1：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）
 ※2：（画像）京都の文化財 第35集（京都府教育委員会）

建仁寺周辺の歴史的資産(1)



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

- | | | | | | |
|--|------------------|--|--------------------|--|-------------|
| | 視点場（境内） | | 建造物・庭園 | | 樹木 |
| | 視点場（参道等） | | 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物 | | 天然記念物 |
| | 近景デザイン保全区域 | | 歴史的意匠建造物 | | 保存樹・区民の誇りの木 |
| | 特に着目する通り | | 界わい景観建造物 | | 文化財（建築物） |
| | 明治25年以前から存在する市街地 | | 京を彩る建物や庭園 | | 文化財（史跡・名称） |
| | 界わい景観整備地区 | | 国土地理院社寺データ等 ※ | | |
| | 歴史的景観保全修景地区 | | | | |

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

建仁寺塔頭

正伝永源院	両足院	大統院	清住院	靈洞院
禅居庵	久昌院	堆雲軒	常光院	靈源院
興雲庵	西来院	大中院	六道珍皇寺	

禅居庵



※

江戸時代の地誌は「ぜんごあん」とよむ。同寺中門内西方にあり、寺門、仏殿ともに東面。開基は清拙、塔廟を靈明と称する。応仁および天文に火災にかかり、慶長(1596-1615)の初め再建。開北友松筆紙本墨画松竹梅図(国指定重要文化財、京都故栗生博物館寄託)を蔵する。摩利支天堂は禅居庵の境内塔頭。唐門・本堂共に南面。堂は天文の兵火にかかり、天文16年(1547)織田信秀が再建(山城名勝志・坊目誌)。³²⁾

正伝永源院



府指定

建仁寺の境外塔頭。同寺の北、花見小路筋にある。門は東面、仏殿は南面。本尊釈迦如来。開基の紹仁義翁は宋より渡来、建仁寺に住し晩年正殿院を創す。天文(1532-55)以来荒廃していたが、元和4年(1618)織田長益(有楽斎)が再建、意匠を凝らし林泉園芸を完備する。

明治5年(1872)10月窮民産業所のため上知、替地として旧永源庵の地を下付されえ建造物は放棄して寺号のみ移し、明治6年今の名とする(坊目誌)。肥後細川家の墓がある。また福島正則のものとする墓もある(京都名家墳墓録)。

同42年織田氏建立の書院・庫裏・総門・唐門・二重閣門・長好閣を売却移転、茶室如庵堂も徹した。跡地には茶人武野紹鷗や信長の弟で茶人大名の織田有楽斎の墓がある。³⁴⁾

清住院



建仁寺の境外塔頭。同寺の北西、有楽小路建仁寺町東入南側にある。本尊は観音菩薩。開基の良芳は元中元年(1384)没。明治5年(1872)10月窮民産業諸のため寺地を収公され、替地として祥雲院跡地を下付される(山城名勝志・坊目誌)³⁵⁾

大中院



建仁寺の境外塔頭。同寺の東、花見小路通り安井道北角にあり、門は西面、仏殿は南面。本尊は観音菩薩。興国3年(1342)竺源の開基(坊目誌)寺蔵の絹本著色闍提正具像(京都国立博物館寄託)は国指定重要文化財。³⁶⁾

※：(写真提供)京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

建仁寺周辺の歴史的資産(2)

■ 六道珍皇寺



本殿※1

建仁寺の南東に位置する。丹塗の寺門を松原通北側に開き、本堂も南面する。正式には六道珍皇寺と称する。山号は大椿山。臨濟宗建仁寺派。本尊は木造薬師如来坐像（国指定重要文化財）を「都名所図会」は伝教大師（最澄）作とする。

古くは「伊呂波字類抄」に「珍皇寺 愛宕寺」とあり、郡名を負う「愛宕寺」の呼称もあった。また境内を六道の辻と称し、当寺を六道さんとも言いならわした。

境内の閻魔堂には閻魔王とともに小野篁・獄卒鬼塚等を安置する。³⁸⁾

[小野篁伝説]

小野篁は仁寿2年（852）12月に没するが、のち篁の亡霊が当寺に現れたという伝説が生まれた。篁は「野狂」ともいわれて奇行多く、嵯峨上皇の怒りにふれて隠岐に配流されたこともある。死後は閻魔庁における第二の冥官とされたり（江談抄）、冥府からよみがえったという伝説（「今昔物語集」巻二〇）もある。葬地烏辺野のはずれにあたる当寺があたかも現世と冥界の境と信じられ亡霊伝説が生じたと思われる。「伊呂波字類抄」は「（珍皇寺）参議小野篁卿建立、（中略）篁卿冠笏笏位袍等、累代之宝物、納置宝蔵」と、篁を創始者とさえみる。こうした伝説はやがて盆の7日、8日、9日・10日の期間、六道詣と称してこの寺に参り、楨の葉を買い、鐘をついて精霊迎えをする風習を生んだ。³⁹⁾

■ 法観寺

[重要文化財(五重塔)、市指定文化財(太子堂等)、市指定史跡(境内)]

北は八坂神社、南は清水寺のほぼ中間に位置する。霊応山と号す、また八坂塔と通称する。臨濟宗建仁寺派。高さ約46メートル、周囲約6、4メートル四方の本瓦葺五重塔(本堂、国指定重要文化財)と薬師堂、大師堂が現存し、ことに五重塔は東山一帯のシンボルとされる。明治末年までは京都建仁寺塔頭大中院の管理下にあったが現在は独立している。本尊として五智如来五体（釈迦・大日・阿弥陀・阿闍・宝生）を安置。ほかに聖徳太子三歳像を併置。⁴⁰⁾

五重塔（八坂塔）
重文太子堂
(附 棟札1枚・扁額1面)
及び薬師堂
市指定境内
市指定

■ 八坂神社

[本殿(国宝)、重要文化財(石鳥居、楼門、末社蛭子社殿等)]

本殿
国宝※2

四条通の東端に位置し、背後は円山公園。東大路通に面する西側に朱塗の西楼門があるが、正面は南の下河原通に開かれた南楼門で、本殿も南面する。境内には本殿・拝殿を龍芯に多くの摂社・末社がある。旧官幣大社。平安時代には22社の一つで、近代以前は祇園感神院、また祇園社と称し、明治維新に伴う神仏分離後、現社名となる。祭神は素戔嗚（旧牛頭天皇）⁴¹⁾

■ 恵美須神社



※1

大和大路（建仁寺町通）の西側にあり、蛭子とも記した。鳥居・拝殿・本社ともに東に向き、大和大路に面する。旧郷社。建仁寺の鎮守として境内にあったが、応仁元年（1467）の戦火に焼かれ建仁寺が再興するに際し、現在地に移ったという。折から福神信仰が一般に高まり、祇園旅所の冠者殿（現京都市下京区）と並んで商売の神として信仰を集めて今日に至る。

地誌にもしばしば所見し、江戸時代には広く信じられていた縁起と思われる。

なお現在は正月の十日えびすのほか、「二十日えびす大祭」が旧来の例祭と二十日えびすを合わせて10月に行われている。⁴²⁾

■ 安井金毘羅神社



もと安井門跡内の観勝寺境内南西の一角にあり、明治初年の神仏分離で独立（観勝寺はのちに廃される）。正式には安井金比羅宮と号し、崇徳天皇社とも通称される。旧郷社。安井門跡道恕が讃岐国象頭山金比羅大権現の祭神大物主神を勧請して、蓮花光院（安井門跡）の鎮守としたのに始まるという。「都名所図会」は江戸時代の様子を「奥の社は崇徳天皇、北の方金比羅権現、南の方源三位頼政、世人おしなへて安井の金毘羅と称し、都下の詣人、常に絶る事なし」と記している。

現東山区の毘沙門町・月見町両町の氏神で、祭日は10月10日。小絵馬の奉納で知られその風は現在も盛んで、近年絵馬こんぴら館の建設をみた。また境内にかつて藤の名所として名高かった安井門跡の景勝をわずかにしのばせる。⁴³⁾

■ 六波羅蜜寺

[重要文化財(本殿)]

本殿
重文※2

寺門と本堂は東面し、本堂北側に水掛不動・阿古屋塚・阿古屋地蔵、南側に祥寿院・清盛塔・庫裏・表書院がある。山号附陀落山、真言宗智山派。本尊は十一面観音（立像）西国三十三所観音霊場の十七番札所。洛陽七観音の一。市の聖とよばれた空也建立の西光寺を起源とする。⁴⁴⁾

※1：（写真提供）京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所
※2：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

建仁寺周辺のその他の歴史的資産(1)

■ 景観上重要な建築物、庭園等

鳥弥三(鳥彌三)

[景観重要建造物・歴史的風致形成建造物(主屋等)、国登録文化財(主屋等)]



▼30▼3

(指定理由)
 ・京都鴨川河畔の料亭建築を代表する事例としての歴史的な価値が高く、時代とともに生き延びてきた建造物であり、町家の意匠を良好に継承する貴重な建造物である。
 ・創建当時から続く、料亭としてのもてなしと、それを歴史的意匠と共に現代に継承する、貴重な建造物である。

小野邸

[景観重要建造物・歴史的風致形成建造物]



▼25▼48

(指定理由)
 ・町家の外観意匠を良好に保持しており、木屋町通りの通り景観の形成に重要である。
 ・酒屋という商いを外観意匠に留める京町家として歴史的意匠により現代に継承する重要な建造物であり、ものづくり・商い・もてなしのまち京都としての歴史的風致を形成している。

長谷川邸

[景観重要建造物・歴史的風致形成建造物]



▼26▼49

(指定理由)
 ・往時のお茶屋の外観意匠を良好に残しており、先斗町の景観の形成に重要である。
 ・京都の五花街の一つである先斗町のお茶屋の伝統を歴史的意匠により現代に継承する重要な建造物であり、ものづくり・商い・もてなしのまち京都としての歴史的風致を形成している。

壽ビルディング

[景観重要建造物・歴史的風致形成建造物]



▼75▼64

(指定理由)
 ・昭和初期の洋風事務所建築の外観意匠を良好に保持しており、景観の形成に重要な建物である。
 ・京都が近代化へと大きく飛躍した頃の姿を、歴史的意匠により現代に継承する、重要な建造物であり、伝統と進取の気風の地の歴史的風致を形成している。

伊藤喜商店・無量子庵

[歴史的風致形成建造物、国登録文化財(旧店舗兼主屋、無量子庵等)]



▼68

大正時代に店舗(醤油・塩等の小売・卸)とその離れとして建築された町家である。現在は店舗がレストラン、離れが貸家となっている。
 (指定理由)
 ・商いの場と暮らしの場である町家の伝統を、歴史的意匠により現代に継承する重要な建造物であり、ものづくり・商い・もてなしのまち京都及び暮らしに息づくハレとケのまち京都の歴史的風致を形成している。

富美代

[歴史的意匠建造物、景観重要建造物・歴史的風致形成建造物]



◆R021▼104▼100

(指定理由1)
 ・京都五花街の祇園甲部に位置し、格式高いお茶屋のひとつである富美代の建物であり、大正期におけるお茶屋建築の質の高さを示す貴重な建造物である。堂々とした外観に「富」の文字の大きな暖簾が祇園を代表するお茶屋の風格を感じさせ、歓楽街である祇園町北側の良好な景観形成に重要な建造物である。

(指定理由2)
 ・当該建造物は、花街のお茶屋の中でも格式の高い富美代の建物であり、花街の歴史を引き継ぐ貴重な建造物である。座敷への動線や坪庭の配置に加え、大広間の独特な空間構成などお茶屋建築の歴史を知るうえで重要な建築物である。

建仁寺周辺のその他の歴史的資産(2)

鮎鶴

[歴史的風致形成建造物、国登録文化財(本館等)]



▼56

(指定理由)
 ・昭和初期の大規模な料理旅館建築の代表的な事例であり、現在もレストランや結婚式場として更新を重ねながら営業されており、鴨川からの景観への影響やシンボル性の高さ、料理旅館建築としての歴史的風致の形成が非常に大きく、鴨川右岸の料理旅館の伝統を歴史的意匠により現代に継承する、重要な建造物である。ものづくり・商い・もてなしのまち京都の歴史的風致を形成している。

[歴史的意匠建造物]

平野邸



◆R028

お茶屋井上



◆R029

祇園甲部歌舞練場

[歴史的風致形成建造物、国登録文化財(本館等)]



▼18

(指定理由)
 ・祇園甲部歌舞練場は、祇園甲部の中心的存在で、春には「都をどり」、秋には「温習会」などが催されており、伝統的な舞踊、華道、茶道などの技芸を伝える場として現在も営まれている。また、周辺には茶屋形式の町並みが形成しておりシンボルとなっている。

南座

[歴史的意匠建造物、国登録文化財]



◆R024 ※

[歴史的意匠建造物]

閻魔



◆R022

香取屋



◆R023

はきもの匠 内藤



◆R025

井上邸



◆R026

武藤邸



◆R027

建仁寺周辺のその他の歴史的資産(3)

■ 文化財(建築物)、史跡・名勝 等

いづう

創業天明元年(1781)から現在の地で営業。露地、茶室庭は、多少の変化があるものの、基本的な姿は、創業当時そのまま。



34



[京都を彩る建物や庭園]

小野家

建物は、明治20~30年代頃のもので、特に目を引くのは床脇の天袋で、曲線を活かした独創的な意匠。庭には織部灯籠が置かれ、水琴窟が埋められている。



38



[京都を彩る建物や庭園]

ちもと

300年の歴史を刻む、間口の広い木造3階建ての数寄屋造の料理屋で、京都ゆかりの文化人や歌舞伎役者等に愛されてきた。鴨川の畔にあり、夕闇に沈んでいく東山を眺めながらの座敷での宴では、京都ならではの贅沢な時間が過ごせる。



162



[京都を彩る建物や庭園]

しきさいビル

昭和6年(1931)建築の鉄骨鉄筋コンクリート陸屋根3階建て。外観は洋風で白壁でありながら底は瓦という現在の景観条例を先取りした粋な建物。



51



[京都を彩る建物や庭園]

祇園まちなか案内所

築百年の町家を改修され、まちづくりや地域活動、情報発信の拠点として活用されている。長い路地が印象的で祇園らしく女性的な造りの家屋である。また、通風採光の妙を心得た造りとなっている。



196



[京都を彩る建物や庭園]

望月

昭和初期にお茶屋として建てられたものが平成10年に復元された。建物と庭が一体となって景観をなし、内と外を仕切る垣根の板塀は、洗練された統一感を醸し出しており町並に融合している。



197



[京都を彩る建物や庭園]

市村家

明治初期の建築で、2階の格子や踊りの舞台だった板間空間など、御茶屋建築の意匠を伝える四条通に残る数少ない京町家である。近年、1階外観についても、伝統的な意匠に復元された。



265



[京都を彩る建物や庭園]

東華菜館本店

昭和元年(1926)に建てられた北京料理店。設計は米国人建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズ。四条大橋西詰に建つ洋館で、ランドマークとして親しまれている。タコ、ホタテ貝、巻貝などをモチーフとした装飾が見事で、日本最古のエレベーターも貴重である。



386

[京都を彩る建物や庭園]

弓箭閣

昭和初期に町会所として建てられた町家。蔵と庁内の社があり、弓矢町が管理している。弓矢町は八坂神社の氏子として近世から祇園祭の行列に参加していた由緒ある町で、近年まで武具甲冑姿で武者行列を行っていた。現在は、武具甲冑、古文書、古写真などの貴重な記録も保管している。



383

[京都を彩る建物や庭園]

建仁寺周辺のその他の歴史的資産(4)

[国登録文化財]



レストラン 菊水
国登録



旧村井銀行祇園支店※
国登録



八坂倶楽部※
国登録



弥栄会館※2
国登録



フランソア喫茶室※
国登録

[国指定名勝]



旧円徳院庭園
国指定



円山公園※
国指定

■樹木等

名称	天然記念物	保存樹	区民の誇りの木
クスノキ:八坂神社			東山A12
クスノキ:新道小学校(旧)			東山B04
イロハモミジ:鴨川左岸(四条~五条)			東山B05
オガタマノキ:清水小学校			東山B08
クスノキ:六原小学校			東山B09
エノキ:竹村町			東山B10
ソメイヨシノ:木屋町通			東山B15

※2: (画像) 京都府地図情報統合型地理情報システム (GIS)

景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

東山風致地区

【概況】

地区全体として、東山連峰を構成する銀閣寺山や大文字山、如意ヶ嶽、稻荷山、深草、大日山、安祥寺山等の山並みや、吉田山等の緑が保全されている。また、山科北東（毘沙門堂）の山地では、林業による植林等が施され、緑豊かな森林となっている。

各地域の山ろく部の社寺境内地の社寺林や参道の樹林、天智天皇陵等の緑地、京都国立博物館、蹴上浄水場や深草墓園等の大規模敷地の樹木が、山地部の森林と一体となって量感のある緑地空間を形成している。

屋敷周りの生垣や庭木、敷地規模が比較的大きい住宅地における生垣や庭木等により、緑の豊かな地域環境となっている。

地区全体としては、多くの社寺や名勝旧跡と一体となった自然的環境の維持、その周辺の宅地の歴史的環境及び自然的環境の維持に重点を置く。また、数多く点在する社寺の参道におけるそれぞれが特色を持った優れた風致特性の保全、さらに、東山等の山を借景とする社寺や庭園も多く存在し、これらの借景空間の保全を図る。



1) 建仁寺境内



2) 建仁寺境内

【良好な景観の形成に関する方針】

● 建仁寺周辺のゆったりした境内空間と高密度な市街地との巧みな均衡

建仁寺周辺では、土塀に囲まれた建仁寺のゆったりした境内空間と六波羅から祇園につながる高密度な市街地とが巧みな均衡を作り出しているため、この均衡の維持を図る。

歴史遺産型美観地区（祇園町南歴史的景観保全修景地区）

【町並みの形成の沿革】

建仁寺は、1200年代に開かれた最古の禅宗寺院で、その境内地を取り巻くように祇園町南地区の市街地が形成されている。16世紀後半、豊臣秀吉が方広寺、伏見城を築いたことにより、大和大路は、にわかには人の往来が増え、通り沿いに町並みが形成された。

寛文6年（1666年）、宮川町通が開通し、同10年（1670年）に鴨川護岸の石積みも完成したことから、急速に宮川町の町並みが整い、歌舞伎の流行もあって、茶屋町として発展した。

明治（1868年～）に入り、維新前夜の祇園の火災や洛中の戦火などにより衰退する京都の救済策として、建仁寺の塔頭を整理して町地とし、祇園町南側の町並みが形成された。また、大正初期、東大路通の開通を機に八坂通が築造され、沿道の町並みが形成された。

現在は、鴨東の山紫水明の地に、木造建築の宝庫として繊細で雅やかな町並み景観を生み出し、京都を代表する歴史的景観地区となっている。



3) 4)

周辺の町並み(祇園町南歴史的景観保全修景地区-祇園町南側地区)

【景観整備の目的】

長い歴史の中で洗練され、優れた意匠・形態を有する京風町家で構成される町並み景観を後世に伝え、かつ魅力ある生業や生活が営めるよう環境を維持・増進することを目的とする。

【地区の景観特色と整備方針】

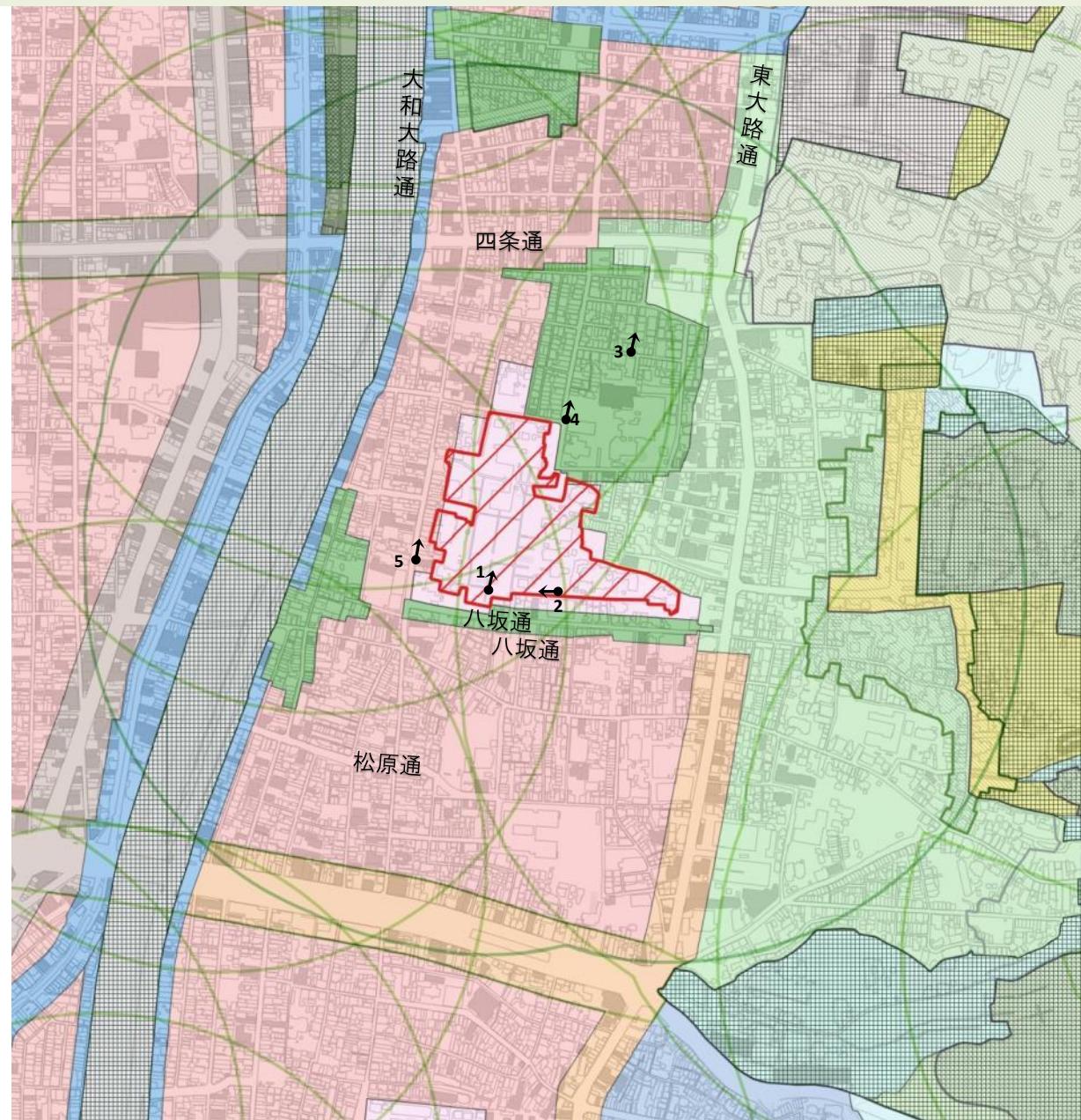
歴史的な様式を継承しながらも家主の人格が表されるように、洗練されたデザインで造られる家屋が連担する木造建築の宝庫として町が営まれてきた。茶屋様式の町家を主流としつつ、各家屋はそれぞれに形態・意匠を異にして、個性を発揮しているが町並みとしては、落ち着いた風情を醸し出し、訪れる人に深い感銘を与える。これらの家作は、住まい手の美意識とそれを見事に表現する職人の作品であり、木造建築の芸術品と言え、この家作の伝統を継承し、さらに磨きかけることにより、京都固有の町並み景観の粋を増進していく。

旧市街地型美観地区（鴨東）

鴨東地域は、主に岡崎疏水の南、鴨川の東、東大路から西、九条通から北の地域で京町家を中心とした歴史的な町並みを多く残す地域である。鴨東地域は、早くから市街化していたところであり、細街路や袋路が多く、長屋を含む数多くの京町家が残るほか、現在でも祇園や宮川町の茶屋町や新門前の骨董屋街等、特徴的な町並みを形成している。西寺町通の沿道周辺には、寂光寺などの広大な敷地と伽藍を有する寺院が集積し、歴史的な町並みを形成している。

また、六波羅蜜寺や六道珍皇寺等の庶民仏教の寺院や建仁寺のほか、東山七条周辺では、三十三間堂、智積院等の大寺院、緑豊かな豊国神社が立ち、東山が間近に迫る風情のある景観を形成している。特に建仁寺周辺では、土塀に囲まれた建仁寺のゆったりとした境内空間と六波羅から祇園につながる高密度な市街地とが巧みな均衡を作り出している。こうした地域の景観特性の継承を、この地域の景観形成の基本方針とする。

このため、建築物は勾配屋根を設け、道路に面して空地を設ける場合は門や塀を設置するなど、京町家や社寺と調和した町並み景観の保全、創出を図る。



【凡例】

眺望景観保全区域	景観地区	建造物修景地区
視点場（境内）	山ろく型美観地区	山ろく型建造物修景地区
視点場（参道等）	山並み背景型美観地区	山並み背景型建造物修景地区
近景デザイン保全区域	岸辺型美観地区	岸辺型建造物修景地区
風致地区	旧市街地型美観地区	町並み型建造物修景地区
風致地区第1種地域	歴史遺産型美観地区 一般地区	
風致地区第2種地域	歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区	その他
風致地区第3種地域	歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区	伝統的建造物群保存地区
風致地区第4種地域	重要界わい景観整備地域	歴史的風土保存地区
風致地区第5種地域	沿道型美観地区	歴史的風土特別保存区域
風致特別修景地区	市街地型美観形成地区	
	沿道型美観形成地区	

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

(資料)

- 1) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路.小学館、1994、 p.265
- 2) 下中邦彦. 日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名. 平凡社、1979、 p.194
- 3) 同上、 p.222
- 4) 同上、 p.217
- 5) 同上、 p.198
- 6) 京都市 編. 史料 京都の歴史第10巻 東山区. 平凡社、1987、 p.253
- 7) 下中邦彦. 日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名. 平凡社、1979、 p.231
- 8) 同上、 p.222
- 9) 下中邦彦. 日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名. 平凡社、1979、 p.210
- 10) 同上、 p.198
- 11) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社、1984、 p.753
- 12) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路.小学館、1994、 p.265
- 13) 下中邦彦. 日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名. 平凡社、1979、 p.194
- 14) 同上、 p.222
- 15) 同上、 p.222
- 16) 京都市 編. 史料 京都の歴史第10巻 東山区. 平凡社、1987、 p.253
- 17) 同上、 p.216
- 18) 下中邦彦. 日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名. 平凡社、1979、 p.182
- 19) 同上、 p.222
- 20) 同上、 p.194
- 21) 同上、 p.222
- 22) 同上、 p.217
- 23) 同上、 p.198
- 24) 京都市 編. 史料 京都の歴史第10巻 東山区. 平凡社、1987、 p.253
- 25) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社、1984、 p.640
- 26) 同上、 p.753
- 27) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路.小学館、1994、 p.265
- 28) 下中邦彦. 日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名. 平凡社、1979、 p.231
- 29) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路.小学館、1994、 p.265
- 30) 平凡社. 寺院神社大事典1 京都・山城. 平凡社、1997、 p.226
- 32) 同上、 p.229
- 33) 同上、 p.231
- 34) 同上、 p.231
- 35) 同上、 p.231
- 36) 同上、 p.231
- 37) 同上、 p.230
- 38) 同上、 p.492
- 39) 同上、 p.496
- 40) 同上、 p.604
- 41) 同上、 p.689
- 42) 同上、 p.113-p.115
- 43) 同上、 p.699
- 44) 同上、 p.740